

令和6年度・第32回通常総会を開催 全役員再任し事業を継続

第32回通常総会を6月28日、長野市の犀北館ホテルで開いた。令和5年度の事業報告、会計報告と監査報告を審議し、役員改選議案と各委員会組織構成案、6年度の事業計画案、年間スケジュール案、事業予算書案の全議案を審議、可決した。

任期満了に伴う役員改選では、藤森照信名誉会長、土本俊和会長以下15名の役員全員と監事2名、顧問5名の再任を決めた。

令和6年度も総務、会員、事業・技術、広報・編集の4委員会が主導して技術の伝承と後継者の育成、優れた職人の発掘および紹介、会報「たくみ」の2回の発行などを決めた。年間スケジュール案では、8回の研修会のスケジュールと企画担当する委員会を決めたほか、8月28日に親睦スポーツ大会、10月26・27日に研修旅行、1月22日に新年会、6月25日に通常総会を開くことなどを決定した。

スリースター制度認定者の表彰では、今年度新たに23名に認定したことを紹介し、二十五ツ星の西澤広智氏に代表して認定書を手渡した。

また、新会員として鎌田義信氏(株栄光・長野市)が個人会員として入会されたことを報告。本人から入会にあたってのあいさつをいただいた。

総会后、画家の小山利枝子氏を招いて「制作の軌跡 花に導かれて」と題する講演を聞いた。



会員や来賓が参加して開かれた総会



小山利枝子氏



懇親会であいさつする井内副会長

令和6年度 信州名匠会 年間スケジュール

A: 会員集会・委員会 B: 学習・見学・実習 C: 交流 (カッコ内は担当委員会)

令和6年

6月28日(水) 令和6年度 第32回通常総会(総務)
7月20日(土) 第1回研修会 C(会員)
8月28日(水) 親睦スポーツ大会 C(会員)
9月21日(土) 第2回研修会 B(事業技術)
10月26日(土)～27日(日) 研修旅行 B、C
(事業技術、協力:総務・会員)
11月16日(土) 第3回研修会 C(会員)
12月11日(水) 第4回研修会 B(事業技術)

令和7年

1月22日(水) 新年会 C(総務・会員)
2月19日(水) 第5回研修会 B(事業技術)
3月12日(水) 第6回研修会 B(事業技術)
4月12日(土) 第7回研修会「お花見」C(会員)
5月17日(土) 第8回研修会 A・C(総務・会員)
6月25日(水) 令和7年度 第33回通常総会(総務)

研修会 場所: 基本会場 榎宮本忠長建築設計事務所 第2会場 榎降幡建築設計事務所
時間: 18:30～20:30 ※委員会の企画内容により異なる場合があります。
※研修内容・場所・日時については決定次第順次お知らせいたします。

令和6年度通常総会 基調講演会

「制作の軌跡 花に導かれて」

画家

小山 利枝子さん



総会の基調講演会では、長野市出身の画家・小山利枝子さんを招いて「制作の軌跡 花に導かれて」と題する講演を聞いた。

小山さんは、大学時代から現在に至るまでの創作活動の変遷、特に花をモチーフにした作品の進化について説明。色彩の変化や光の表現、デッサンの重要性など、自身の芸術的アプローチについて深く掘り下げるとともに、様々な展覧会の経験やオンラインダでの滞在、アーティストとしての成長過程について語った。

自身の作品が時間とともに変化し、より抽象的になっていったと振り返った。写実的なデッサンが作品の基礎となり、観察力を養うことで、より大きなイメージを生み出す源泉になったと説明。また、デッサンから大きなキャンバスへの展開プロセスについても詳しく語った。

小山さんは、自己模倣を避け、常に新鮮な表現を追求する重要性を強調し、芸術作品が作家の内面を反映することも説明した。特に東日本大震災後の作品制作では、悲しみや喪失感が作品に与えた影響について触れる一方で、芸術の持つ癒しの力についても言及した。

小山さんは、長野県での芸術活動や、現代アートを取り巻く環境の変化についても触れ、過去30～40年間で現代アートを取り巻く環境がどのように変化してきたかを語った。最近では、アーティストに対する支援が手厚くなっているとして、美術館やギャラリーとの関係の変化についても紹介した。また、最近の展示や今後の予定を紹介し、令和7年2月に予定される「もんぜん千年祭」で展示を計画していることを伝えた。

令和6年度懇親ゴルフコンペ 高橋志行氏が優勝

スポーツを通じ会員同士の親睦はかる恒例の懇親ゴルフコンペが、長野カントリークラブで行われた。

4組、15名が参加し、台風10号が近づく中、何とか天気恵まれて無事18ホールをプレーすることができた。日頃の仕事を忘れ、和気あいあいとゴルフを楽しんだ。

今回は、ベテラン・若手の飛ばし屋、ゴルフが久しぶりの方など多彩な中、むね工房の高橋志行氏が、飯綱コース46、戸隠コース47で優勝された。また、ベテランの五明氏が準優勝し、ベストグロは坂田氏、本澤氏、北沢氏が91とレベルの高いコンペになった。

プレー後のパーティーでは、各賞が渡され、ベテラン・若手、プレーを振り返りながら親睦を深めるひとときとなった。

参加者は次の通り（順不同、敬称略）。

坂田守夫・坂田工業(株)／宮本夏樹(株)宮本忠長建築設計事務所／高橋志行(株)むね工房／黄荃男(株)カネト／北澤徹(有)北澤ステンレス工業／竹口暢彦(株)本久／五明良平(株)五明／水沢仁亮(株)二見屋／本澤篤(株)マナテック／米田満(株)山二／齋藤昌彦(株)／角藤／増田幸雄・匠建設(株)／黒崎紀彦(有)黒崎建設／小坂浩一・小坂建設(株)／竹野正樹(株)二見屋／



三十四ツ星1名ほか23名の新認定者が誕生 ～スリースター制度規認定者紹介～

「スリースター制度」は、月1回の定例研修会に熱心に参加している会員の努力をたがいに認めあい、その誇りを励みに日々の仕事を高めあおうと、平成11年に創設された。研修会へ1回出席するごとに1単位を加算し、10単位で星1つを与える。今年は新規認定者23名(認定者総数64名)が誕生し、通常総会において認定証を授与された。貴重な研さんの場である定例研修会への、会員諸氏の精力的な参加に、ますます期待が高まっている。

◆「スリースター制度」令和5年度新規認定者

(令和6年6月現在、敬称略。数字は星の数。紙幅の関係で新規認定者のみ掲載いたします)

☆☆☆三十四・1名☆☆☆
坂田 守夫/坂田工業(株)

☆☆☆三十一・2名☆☆☆
堀 誠/建築工房アカシヤ
西澤 嘉雄/(株)N建築設計事務所

☆☆☆二十五・1名☆☆☆
西澤 広智/(株)宮本忠長建築設計事務所

☆☆☆二十二・1名☆☆☆
五明 良平/(株)五明

☆☆☆二十一・1名☆☆☆
犬飼 栄治/(株)シナノ大理石

☆☆☆十二・1名☆☆☆
水沢 仁亮/(株)二見屋

☆☆☆十一・3名☆☆☆
米田 満/(株)山二
内山 保/朝陽工芸(有)
落合 一視/落合コンサルタント

☆☆☆八・1名☆☆☆
荒井 孝明/(株)本久

☆☆☆七・1名☆☆☆
祢津 吉通・(株)ミツルヤ製作所

☆☆☆五・1名☆☆☆
栗原 直良/(株)新建新聞社

☆☆☆四・4名☆☆☆
左右田 光/(株)インテック左右田
宮内 計臣/(株)宮内
林 正道/(株)林工務店
堀内 太一/(有)泉秀園

☆☆☆三・1名☆☆☆
齋藤 昌彦/(株)角藤

☆☆☆二・3名☆☆☆
高橋 志行/(株)むね工房
黄 聖男/(株)カネト
福島 一明/(株)北信帆布

☆☆☆一・1名☆☆☆
大内 健太郎/サンコー特機(株)

令和5年度 事業報告 (人数は参加者)

令和5年

- 6月20日(火) 第31回通常総会 基調講演「木質材料の特徴を生かす構造デザイン」(株)坂田涼太郎構造設計事務所 坂田涼太郎氏 42名
- 7月22日(土) 第1回研修会 びんぐし湯さん館「温泉に浸かり親睦を深める 世俗の垢を落とし、語り合いましょう」(株)N建築設計事務所 西澤嘉雄氏 18名
- 8月2日(水) 親睦ゴルフ大会 長野カントリークラブ 12名
- 9月23日(土) 第2回研修会「旧小諸本陣」(問屋場)、「脇本陣の宿桑屋」見学会 北野建設(株)工事主任 岡田利活氏、甘利亨一建築設計舎 代表取締役 甘利亨氏 21名
- 10月21日(土) 第3回研修会「コードマーク御代田」見学会 アイダアトリエ 代表・建築家 会田友朗氏、(株)コードマーク御代田 代表取締役 森田 秀之氏 24名
- 11月18日(土)～19日(日) 富山・飛騨高山 研修旅行 23名

令和6年

- 1月24日(水) 信州名匠会令和5年度新年会 34名
「たぐみ」No.49新春号発行
- 2月17日(土) 第4回研修会「中野市市民会館リノベーション工事」完成見学会 (株)宮本忠長建築設計事務所 山田専務、出澤設計監理副主管、本荘設計監理副主管 19名
- 3月21日(木) 第5回研修会 第27回リレートーク「ストーブ・サウナ」長野サウナ販売(株)代表取締役 鳥羽英夫氏 25名
- 4月13日(土) 第6回研修会「森の駅・長野ファレストビレッジ」見学会(株)シーンデザイン建築設計事務所 代表 宮本圭氏 19名
「陶芸教室」陶工房RUKU 15名
- 5月14日(火) 第7回研修会「よろづや 松籟荘」見学会(株)宮本忠長建築設計事務所 設計長 西澤広智氏、(株)竹節建築 竹節雅英氏、(株)宮内 宮内計臣氏 30名

令和5年度 会計報告書

自：令和5年6月1日／至：令和6年5月31日

会員の動向（令和5年6月～令和6年5月末日。敬称略）

■新会員 個人会員■

鎌田 義信／（株）榮光／解体工事／長野市青木島町大塚1026-3／電話026-214-7909

■退会 個人会員■

長野森林組合／坂戸 雄世

■退会 賛助会員■

ライフエンジニアリング／岡田 直也

征矢野建材（株）／岩垂 智昭

出澤 潔氏 ご逝去

当会個人会員の出澤潔氏が8月30日にご逝去されました。享年87。永年にわたり、当会への深い慈しみと共に、力強く先導していただいた故人を振り返り、謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

出澤氏を偲んで、当会専務理事の坂田守夫氏より思い出をご寄稿いただいた。

出澤潔さんを偲んで

坂田 守夫

私が出澤さんとお会いしたのは、現在のJIA長野県クラブでの出会いが最初です。名刺交換をした時に穏やかでニコニコしていた顔が今でも忘れられません。

出澤さんはJIA 長野県クラブの代表を4年間務められ、人望が厚く建築家の手本となる人で、当時賛助会の会長を私がしていましたが、我々賛助会員に対しても、「長野県クラブは賛助会の皆様があつての長野県クラブだ」といつも言ってくださいました。長野県クラブが一番大変な時に4年間も代表として、今のクラブの礎を築いたことは間違いありません。私も永い間賛助会の会長を務めていたのでよくわかります。

このような出澤さんが、信州名匠会に入会していただいた時は、本当にうれしかったのを覚えております。温厚なお顔で眼鏡越しに、いつもほほ笑む姿は同じでした。その後は理事を務めていただきました。理事会は夜、宮本事務所でやっておりましたが、佐久から自ら運転して来られ、「大変だけど、この会が楽しいし、勉強になるから」と、よく言われていました。本当に建築のことが好きな人だと改めて感じました。

1年に何回しかお会いすることはありませんでしたが、去年の暮に出澤さんの事務所にお伺いしたところ、「お茶でも」と奥様共々に勧められましたが、軽井沢まで行く用事があったので、お断りしてしまいました。

お元気で相変わらず、ニコニコとして対応していただいたのに、今となっては本当に申し訳なく思うと同時に、まさか最後の別れになるとは、今も信じられません。駐車場から出るときも誘導していただき、「先生またゆっくりとおじゃまします」と言ったのが、残念なことに実行できなかったのが悔やまれます。もっともっと長生きして、我々に指導していただきたかったと思うのは私だけではないと存じます。

告別式に参列して、あまりに大勢の人たちが訪れていたのにはびっくりしましたが、出澤さんの人望厚く、温和なお人柄が、人々を引き付けていたからだ、心から思いました。長い間にいただいたご指導ご鞭撻に深く感謝申し上げるとともに、これからも天国から我々信州名匠会の活動を見守っていただきたいと存じます。出澤さん、本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



定例研修会●Report

(令和6年4月～令和6年11月)

令和5年度 第6回研修会 【「森の駅フォレストビレッジ」見学会 …高原での陶芸教室】

令和6年4月13日(土)

講師：シーンデザイン建築設計事務所 代表 宮本 圭氏

陶芸：陶芸工房 RAKU

参加者：19名



計画について宮本氏(左奥)の説明を聞く

2022年4月に飯縄高原にオープンした「森の駅・フォレストビレッジ」の見学を行った。講師には設計監理を担当された(株)シーンデザイン代表の宮本圭氏をお迎えした。



屋内アクティビティ棟を見学

宮本氏からまず、プロポーザルからのコンセプトや全体の計画の概要について伺った。総工費は6億円、1,200㎡程度で構造規定なし。決して潤沢な予算ではなかった。その中で、当建築は分棟としている。一般的に考えれば、分棟にすれば、単純に基礎や外皮面積が増加しコスト増と考える。しかし、宮本氏は分棟とすることでのコスト削減を考えた。構造は木造とし、1棟の床面積を抑えることで、防災設備を削減、木構造で基礎は軽くなり、地盤改良の軽減につながった。

また機能面としても分棟は利点があった。長野市の要望としては、天気の良い日にファミリー層が遊べる施設をつくること、もう一つはサテライトオフィスとして機能すること。この正反対の用途を共存させる面でも分棟は適していた。また、遊べる機能の棟を無空調とすることで、空調設備のコスト削減にもつながった。

材料の特徴としては、元から敷地に生えていたカラマツを伐採・製材し、サーモウッドに加工して、外壁に使用した。また、大型遊具のカラマツやツリーハウス、石積み壁はすべてモルタル造形にエイジング塗装という技術でつくられているという。「偽物か」という声も聞かれるが、「それだけ自然を、本物を観察して、つくられているという点に注目してほしい」と言う。

また、地盤改良には、セメントや鉄ではなく、自然物である砕石を利用した「砕石改良工法」の採用、冷暖房空間を限定することで、コストを抑えながら地中熱利用を実現するなど、環

境配慮への工夫が見られる。

本計画は、設計段階から運営者が参入し、設計を進めてきたプロジェクトである。宮本氏は「コスト的な制約が大きい中、様々なことにチャレンジできたのは、運営者が設計段階から、共に使い方や建築のあり方を考えることが大切であった」と締めくくった。

【陶工房 RAKUでの陶芸体験】

同日、コロナ禍のため、しばらく行っていなかった陶芸体験を開催した。会員約13名が参加し、手動ロクロを使って、コップや、器など、思い思いの造形を楽しんだ。



多彩な造形が生まれた陶芸教室

みなさん、形を作り始めると言葉数は少なく、手も早く、あっという間に器を完成させていた。完成後は、お互いの作品の特徴や感想を語り合いながら、和気あいあいとした雰囲気での閉会した。出来上がりが大変楽しみである。

令和5年度 第7回研修会 【よろづや「松籟荘」「本館」見学会】

令和4年7月16日(土)

令和6年5月14日(水)

講師：(株)宮本忠長建築設計事務所 設計長 西澤 広智氏
設計監理副主任 黒岩 洸太氏

(株)竹節建築 社長 竹節 雅英氏

(株)宮内 社長 宮内 計臣氏

参加者：30名

3月に再オープンしたよろづや「松籟荘」と本館のロビーを見学した。2021年12月の火災で焼失したため再建を進めてきたもので、設計を担当した宮本忠長建築設計事務所の西澤広智氏と黒岩洸太氏、協力業者の竹節建築・竹節雅英氏と宮内・宮内計臣氏を講師に招き、計画の経緯や概要を説明していただいた。



本館ロビーを見学

再建にあたっては、よろづやアネックス湯楽庵(8階建て)を解体し、1階のRC造部分と地下部分を残したうえで2階建て5部屋の「松籟荘」を建設した。施工は守谷商会在が担当した。

松籟荘は、1階の「はぎ・きく・なでしこ」の3部屋と、2階の「こまきさ・しゃくなげ」の2部屋、1階部分に食事スペースを2部屋配置。5部屋それぞれにシャワー室とお風呂を備えている。その風呂は回りの建物から見えないよう目隠しを高く施し、浴槽の近くにゲージとバルブを設置。温度調整がすぐできるように、利用者にとって使いやすさにこだわったという。また、1階の格子天井には軽く、施工性にも優れたアフリカ原産



松籟荘ロビーを見学

のアイース材を使用。赤を特徴としたサペリの床材を使用した。入口は畳にし、部屋の畳は黒べりを使っている。

1階部分は共用部分と部屋を別棟扱いとし、200㎡以下にすることで、木造による内装制限がかからない作りとした。一方、2階部分は内装制限がかかるため、不燃性の木造を使用している。

令和6年度 第1回研修会 【「軽井沢A邸別荘」見学会】

令和6年7月27日(土)

講師：(株)むね工房 代表取締役社長 高橋 志行氏
(株)坂田工業 代表取締役会長 坂田 守夫氏
参加者：19名

当会会員むね工房の高橋氏が木工事を行い、屋根防水を当会専務理事の坂田工業・坂田氏が担当した、軽井沢で7月に竣工を迎える「軽井沢A邸別荘」を竣工直前のタイミングで見学した。

設計はand to建築設計事務所、施工は北野建設。新築の別荘はプライバシーの観点で見学する機会が少なく、大変貴重な機会となった。



個性的な軽井沢 A邸を見学

軽井沢駅北側の閑静な別荘地の森の中に、一見、奇抜なデザインの建物が現れた。緩やかに丸みを帯びた軒先、光を落とす中庭、開放的なテラス、建物全体を支える丸太の列柱が、目を引きながらも、自然の中に溶け込んだ、既存概念に縛られない魅力ある建物であった。

構造は、木と鉄のハイブリッド構造。屋根の登り梁は1本1本形状が異なるため、プレカットとしており、登り梁同士は、屋根内で鉄骨の吊り材で支えることにより、曲線を用いた大変複雑な形状を実現している。また、柱脚は鉄骨の無垢材、柱は杉の丸太材を使用している、と高橋氏が説明。



既存の樹木を生かした中庭

まっすぐスラブを貫き屋根を支える列柱は、森を連想させるような神秘的な空間を表現していた。

仕上げとしては、屋根と外壁は同様のアスファルトシングル葺き。屋根は緩勾配のため、仕上げの下に全面防水としている、と坂田氏から説明があった。

また、2階は、既存樹木を生かした計画となっている。

内部空間は中庭に面して、ダイニング、リビング、テラスが開放的につながっている。既存樹木を生かした中庭は大変魅力的であり、土地の自然を最大限に活かしつつ、内部に取り込むための、工夫を感じられた。

令和6年度 第2回研修会 【松本の奥座敷「浅間温泉の歴史を巡る」】

令和6年9月21日(土)

講師：藤松建築設計事務所 藤松 幹雄氏
(株)倉橋建築計画事務所 小宮山 吉登氏
(有)かわかみ建築設計室 川上 恵一氏
参加者：21人



松門文庫を見学

令和6年度の第2回研修会は、藤松幹雄氏、小宮山吉登氏、川上恵一氏の3名を講師に迎えた。講師から松本市浅間温泉の歴史について学び、地域内の建物を見て回った。

はじめに本郷公民館に集合し、講師たちから浅間温泉の歴史やまちづくりを聞いた。藤松氏は、浅間温泉が縄文時代から存在する歴史的な場所であることを強調し、明治時代以降の発展過程を説明。片倉製糸の開業に伴う近代化や、旅館業の発展・建築様式の変化について解説した。

スポット巡りでは、1919年の建築で近代和風建築に分類される「松門文庫」を見学した。建物は、和洋折衷の意匠を持つ木造2階建て、寄棟瓦葺きの建築。外壁は漆喰を基本に傷みやすい部分にモルタルを用い、窓周りや玄関ポーチのペディメントの装飾、ポーチ柱の研ぎ出し仕上げなどが特徴であるほか、ポーチ屋根は銅板の鱗葺きで松本市内では希少だという。



降幡邸の説明をする川上氏(左)と施主の降幡氏(中央)



松本十帖「おやき」・検番

松門文庫の見学後は、中浅間駅停留場「チンチン電車」跡地、降幡邸、目の湯、梅の湯、松本十帖・小柳、松本十帖「おやき」・検番などを見て回った。